



高齢化と 急傾斜と 鳥獣害

左に一枚の写真があります。
写真では分かりにくいですが、
スキー場のような急斜面になっ
ています。

今から4年前、もうすぐ80歳になられる農家の方から借り受けた、通称「桜池（さくらいけ）」と私達が呼んでいる園地です。

写真の右側にフェンスが張ってあるのが見えると思います。

このフェンスは、イノシシやアライグマの園地侵入を防ぐために、3年前に園地全体に張り巡らせたものです。

昨年11月下旬、この園地の50%程度のみかんが、イノシシやアライグマに食べられてしまうという大損害が発生しました。

高齢化と鳥獣害によりミカン栽培を辞めてしまう方が多い中、昨年のこの園地の被害はまさにその典型的なものでした。

一年かけて栽培したものが、たった一週間で半分に減ってしまうのですから、絶望的な気持ちになります。

今年はそれを教訓に、フェンスの周りにさらにナイロンフェンスで強化を行い、鳥獣害を防いでいるところです。

今のところ大きな被害はありませんが、ほぼ毎日見回りを行っています。

田舎であるこの地域でも高齢化、急傾斜、鳥獣害により、園地を手放す農家様がどんどん増えております。

この桜池の園地のみかん栽培を続けていくには、80歳の方ですととても難しいものであると感じます。

微力ではありますが、若い人財が集いし私達がそのような場所を持続的に栽培出来るようにして、お客様にも、そして地域にも善きことを行ってまいります。

農業生産法人有限会社柑香園

(観音山フルーツガーデン)

六代目 児玉芳典

(右の写真はフェンス外のイノシシの獣道です。
園地に入れず諦めてくれたようです。
油断は出来ませんが、一安心です。よかった(^_^)ノ →

